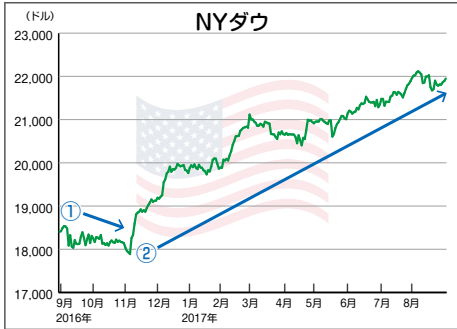


マーケット情報

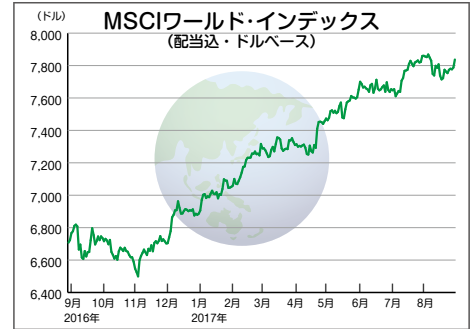
対象期間：2016年8月末～2017年8月末



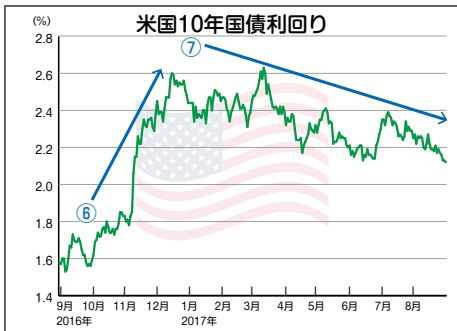
データ出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス、Bloomberg



データ出所：©日本経済新聞社、Bloomberg



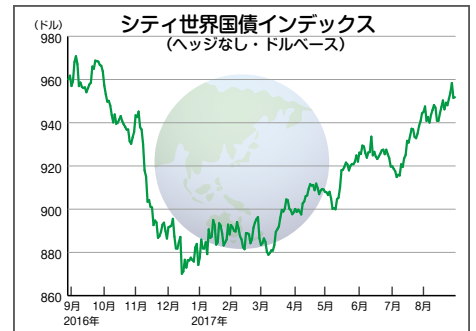
データ出所：MSCI Inc.、Bloomberg  
※MSCIワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を含む世界の先進国で構成されています。同指数に対する一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。



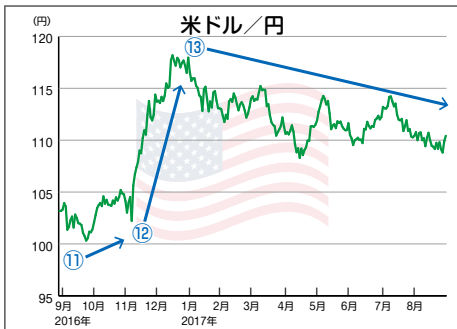
データ出所：Bloomberg



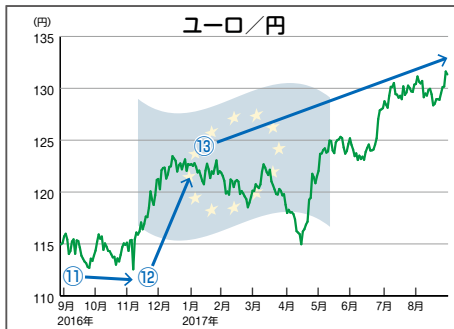
データ出所：Bloomberg



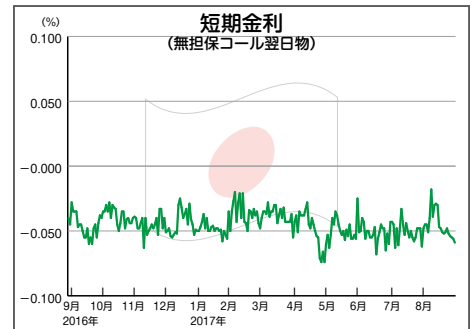
データ出所：シティグループ・グローバル・マーケット・インク、Bloomberg  
※シティ世界国債インデックスはシティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した、世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。



データ出所：三菱東京UFJ銀行、Bloomberg



データ出所：三菱東京UFJ銀行、Bloomberg



データ出所：Bloomberg

※ MSCI ワールド・インデックスとシティ世界国債インデックスは、ドルベースでの表記です。世界株式型、世界コア株式型、世界債券型のベンチマークおよび指数は円換算したものであり、為替レートの影響を受けるため、上記のチャートと連動しないことがあります。円ベースのベンチマークおよび指数につきましては、1年間の特別勘定の動きまたは各特別勘定の設定来指数推移をご確認ください。

マーケットに影響を与えた出来事

外国株式市場	日本株式市場
<p>(米国)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>堅調な経済指標を背景とした米国年内利上げ観測の高まりや、欧州大手銀行の経営破綻懸念が再浮上したことから、米株価は緩やかに下落。(①)</li> <li>2016年11月の米大統領選において共和党のトランプ氏が勝利すると、経済政策への期待感から米株価は再び上昇に転じた。その後は、良好な雇用環境や堅調な米国経済を背景に、NYダウは連日最高値を更新。(②)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日銀のEFT購入による株価下支えの効果や円高が一服したことが好感され、日経平均株価は上昇。さらに、米大統領選でトランプ氏が勝利し、円安基調になると、投資家心理が改善し、日経平均株価は上げ幅を拡大した。(③)</li> <li>トランプ政権の政策実行性への不安が台頭したものの、米国株の堅調な推移や、仏大統領選挙において中道派の勝利や、良好な企業業績見通しを背景に株価は上昇基調となった。(④)</li> <li>地政学リスクの高まりから、円高ドル安が進行し、株価は下落に転じた。その後は、米朝軍事衝突の可能性は低いとの見方が出たことや、米国の良好な経済指標の結果を受けて、株価の下落は限定的となった。(⑤)</li> </ul>
外国債券市場	日本債券市場
<p>(米国)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雇用や消費の良好な環境から米国の利上げが意識され、金利は上昇基調へ。その後、トランプ次期政権下での大規模なインフラ投資政策やインフレ期待の高まりに加え、12月のFRBによる利上げ決定を受け、金利は一段と上昇。(⑥)</li> <li>トランプ政権の政策の実効性に模擬的な見方が広がり、金利の上昇は抑えられた。また米国の物価上昇が緩慢であることや、地政学リスクが高まると、金利は低下基調へ。(⑦)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2016年7月末の日銀決定会合において、マイナス金利政策の深堀りが見送られると、金利は上昇に転じた。(⑧)</li> <li>トランプ氏勝利後は、米国債金利上昇への警戒感や日本株高を背景に日本国債が売られ、10年国債利回りはマイナス圏を脱するまでに上昇した。その後は、物価の伸びの弱さから日銀の金融緩和政策の長期化の見通しが強まり、金利の上昇は抑えられる展開となった。(⑨)</li> <li>地政学リスクの高まりから、安全性に資金を逃避させる動きが活発化したことから、日本国債は買われ、10年国債利回りは、ゼロ%付近まで低下した。(⑩)</li> </ul>
外国為替市場	
<ul style="list-style-type: none"> <li>英国のEU離脱決定後は円高が加速したが、その後過度なリスク回避姿勢は緩和され、ドル、ユーロはもみ合う展開に。(⑪)</li> <li>米国債金利の上昇を背景に日米金利差拡大を意識した円売りが優勢となり、円安基調に転じた。(⑫)</li> <li>トランプ米大統領の通商・移民政策に関する強硬路線やドル高牽制発言によりドル高が抑えられていることや、米長期金利の低迷から、円高ドル安基調へ。ユーロ/円は、地政学リスクで円高基調が強まるも、仏大統領選挙で中道派候補が当選したことを起点にユーロ高に転じた。その後もユーロ圏の景気回復や量的緩和縮小期待からユーロ高が一段と進んだ。(⑬)</li> </ul>	